

安平町平和大使 広島平和記念式典へ テーマ「世界の平和を作るためには」



旧追分町時代から続く広島平和記念式典派遣事業は今年で25回目。

町内の小中学校を代表して6名の平和大使が、8月6日に開催された「平成25年度広島平和記念式典」に出席しました。

安平町平和教育マスターの井森みゆきさんや各学校の児童生徒たちが作成した千羽鶴の束を託されて2泊3日の広島研修に向かったのは8月5日。

事前学習では、平和を考える機会を充実したものにしようとして、「平和」というキーワードからテーマを「世界の平和をつくるためには」に決定。一人ひとりが課題を考え、自主学習を踏まえて式典に臨みました。

8月5日 出発の日

朝7時、追分公民館で行われた出発式において千羽鶴を託され、広島へ向かって安平町を出発。

広島についてから、早速千羽鶴を納めに「平和記念公園」へ。原爆の子の像付近には、国内外各地から送られた千羽

鶴が納められていました。その後、原爆ドームや広島城を見学しました。

8月6日 平和記念式典

朝から気温が高く、水分補給をしながらの参列。

献花をした後は、碑めぐりガイドの方と合流し記念碑めぐり。戦争の怖さを語り次ぐ語り部の方からお話を聞いたほか、「平和の鐘」を鳴らした後、平和記念資料館を見学したり、夜はとうろう流しをしたりと、平和への祈りをより強くした一日となりました。

8月7日 北海道へ

2泊3日の研修もいよいよ最終日。北海道へ帰る日となりました。

平和記念式典の参列、被爆者や二世との出会い、間近で見た原爆ドームや記念碑。6名の大使の心に残ったものは…。

帰町してからも事後研修が行われ、安平町平和祈念式典の報告会に臨みました。

6名の平和大使が、広島で感じたこと、自分ができるところをまとめた作文を紹介しています。(紙面の都合上、文面を割愛しています。)

戦争を二度と起こさないためには

追分小学校6年 時崎稜士

僕は世界の平和をつくるためには、戦争はなぜ起こるのか?について知ることが大事だと考え、戦争の起こる理由ということテーマとして取り組みました。

広島に行き、石碑やお墓

を見たり、被爆者や被爆二世の方々から家族の話や原爆が落ちた時の当時の様子などを聞いて感じたのは、「戦争ってこんなに恐かったんだな」「今の日本の時代に生まれて良かった」ということです。

僕は、「原爆はこんなに恐ろしいんだ」「原爆はこれほどまでに人を苦しめるものなんだ」ということを強く

広島に行つて感じたこと

早来小学校6年 川崎達也

自己テーマは「原子爆弾について」と戦争の怖さを知るとしました。広島に行く日まで本やテレビで原爆のことについて調べたり、家族で話し合い、広島に行きました。

広島についてまず「原爆の子の像」に行つて、早来小学校の皆で作った千羽鶴を納めました。そこにはものすごく沢山の千羽鶴

が納められていて日本中の人達が平和を願っているのだと感じました。原爆ドームは、テレビや写真で見るとよりひどくこわれていて原爆の威力のすさまじさを感じ、とても恐ろしいと思いました。



平和とは安心して生活できること。平和とはみんなが幸せを感じることに。

平和は、私達自らがつくりだすもの。

大切なのは、私たち一人ひとりの行動なのです。

さあ一緒に平和をつくりましょう。大切なバトンをつなぐために。僕はこの平和のバトンをつなぐ一人になりたいと強く思いました。



最後に自分が一番言いたいことは、世界のいくつかの国や地域において、いまだに戦争をしているということです。日本から見たら、あまり影響はないので、世界は平和だと思っていました。世界からみたら、またまた平和とは確実に言えないと思います。

だから、まず核兵器を排除して、外国の人とどんなことでもいから交流を深めていけば、もしかしたら戦争がなくなるんじゃないかなと思います。

平和記念式典会場には、僕達のような子どもや外国の人達も沢山来ていて、世界の多くの人々が平和を望んでいるのを感じました。特に、子ども代表の竹内君と中森さんの「平和への誓い」が印象的でした。

「平和とは安心して生活できること。」

平和とはみんなが幸せを感じることに。

平和は、私達自らがつくりだすもの。

大切なのは、私たち一人ひとりの行動なのです。

さあ一緒に平和をつくりましょう。大切なバトンをつなぐために。僕はこの平和のバトンをつなぐ一人になりたいと強く思いました。